

令和5年11月9日
(2023年)

保護者のみなさまへ

吹田市立吹田第二小学校

令和5年度 全国学力・学習状況調査の分析について

本年度、6年生を対象として「令和5年度全国学力・学習状況調査」を実施し、8月下旬に個人ごとの結果をお返ししました。また吹田市でも、今回実施した調査結果の概要を吹田市のホームページを通じて公表しております。

この調査は小学校の最終学年のみを対象とした調査であり、教科も国語・算数に限られております。また、測定されたものは学力の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。そのことを踏まえつつ、調査によって得られた課題を明らかにし、その改善に全力を注ぐことが、調査本来のねらいであると考えています。

対象となった6年生には、よりきめ細かな指導ができるよう取り組みを進めるとともに、学校全体として課題に応じた学力向上につながる具体的な指導方法の工夫改善も図ってまいります。各ご家庭におかれましても、以下の分析結果をもとに、今後の家庭学習の指針として、参考にしていただきますようお願いいたします。

下の分析結果をもとに、今後の家庭学習の指針として、参考にしていただきますようお願いいたします。

1 教科に関する調査の分析

●国語 全体として正答率は、全国値をやや下回っています。

「書くこと」の領域は全国値を上回っています。「話すこと・聞くこと」の領域においては全国値をやや下回り、「読むこと」の領域においては全国値を下回っています。

<国語における課題点>

「書くこと」の領域の正答率は全国値を上回っているものの、全国的に正答率は低く、本校としても課題としてとらえています。図表などから情報を読み取り、決められた条件に合わせて自分の考えを文章で書き表すことに課題があります。目的に応じて、文章と図表を結び付けるなど資料から必要な情報を取捨選択することに苦手意識を持つ児童が多い傾向が見られます。また、文脈に合わせた漢字の誤答が多い問題もありました。問題後半で無回答率が上がっており、時間が足りなかった可能性も考えられます。

【改善方策について】

- 授業の中で、互いの考えを比べたり、友だちの意見を参考に自分の考えをまとめたりする場面を今後も増やしていきます。
- 漢字の学習では、文字を覚えるだけでなく、辞書を活用し意味を理解し、言葉や文章の中で正しく使えるように指導法を工夫します。
- 図書室や学級文庫などの読書環境の維持・改善を図り、文学作品だけでなく様々な形式の文章を読む機会を増やすことで語彙を増やし、自力で文章を読み解く力をつけていきます。
- 条件に合わせて書くことに日ごろから慣れておくことが必要だと考えています。資料の内容をふまえて考えを書く、あたえられた条件を満たして書く、字数を制限して書くなど、様々な書き方のバリエーションを取り入れながら、自分の考えを書く機会を設けるよう国語だけでなく各教科で取り組みます。
- 児童質問紙の「国語」や「その他」の項目で肯定的な回答率が全国値より高いことから、子どもたちが意欲をもって主体的に学んできたある一定の成果は出ていると考えられます。今後も子どもたちが主体的に取り組む活動を計画的に取り入れ、自力で文章を読み解く力をつけていくとともに、得た知識を活用して発信していく力を育てていきます。

●算数 全体として正答率は、全国値をやや上回っています。

各領域「数と計算」「図形」「データの活用」で全国値と比べて上回っている問題が多くあります。「変化と関係」はやや下回っています。

<算数における課題点>

基礎的な知識・技能は身につけてきているといえます。選択式・短答式問題の多くは全国値を上回っています。しかし、記述式の問題 4 問のうち3問で正答率が全国の平均値を下回り、無回答率も高いことから、考えや理由を問われる問題においては苦手意識がある児童が多いことがわかりました。

全国的に正答率が低いものは、昨年度と同様に本校も低い傾向にあります。特に、伴って変わる二つの数量の関係が、比例の関係であることを用いて、知りたい数量の大きさの求め方と答えを式や言葉を用いて記述できるかを見る問題では、無回答率が全国値よりも高いなどの課題が見られます。

【改善方策について】

- 基礎基本の定着に引き続き取り組むとともに、複数の数量やグラフからわかることを読み取ったり、根拠を示して説明するなど発展的な学習にも取り組みます。
- 教科書の中で算数の学習が終始するのではなく、生活に根ざした興味・関心のある論述型の問題にも、多く触れる機会をもち、数学的思考方を伸ばしていけるよう授業改善を進めます。
- 授業の中で、日常生活や社会の事象をもとにした問題を提示し、活用・意味づける機会を積極的に取り入れ、自分の考えを言葉や図、表、式を使って表現する力を伸ばします。
- 算数用語を使って友だちにわかるように説明をしたり、考えを理解するなどともに深め合っていく授業を展開できるように努めてまいります。その際、日常生活や社会の事象を意識させ、活用・意味づける機会を積極的に設けることを大切に学習活動を行ってまいります。

2 生活習慣や学習環境等に関する調査の傾向

【学校生活・自分自身のことについて】

多くの質問において、肯定的な回答の割合が全国値を上回っています。しかし、「あてはまらない」と回答した割合も多く、二極化傾向にある課題が残りました。また、「学校に行くのは楽しい」質問においては「あてはまらない」と回答した割合が多く、児童が頑張っていることに対し、学校はもっと積極的に声をかけいく必要があると真摯に受け止めています。

全国値を上回っているもの

「自分によいところがあると思いますか」「人が困っているときは、進んで助けていると思える」「困りごとや不安があるときに、先生や学校にいる大人に相談できる」「人の役に立つ人間になりたい」「普段の生活の中で、幸せな気持ちになることがありますか」「自分と違う意見について考えるのは楽しい」「友達関係に満足している」

全国値とほぼ同じもの

「将来の夢や目標を持っていますか」
「いじめはどんな理由があってもいけない」

全国値をやや下回っているもの

「先生はあなたのよいところを認めてくれていると思いますか」「先生はわかるまで教えてくれますか」

全国値を下回っているもの

「学校に行くのは楽しい」

【学習状況】

すべての質問において、肯定的な回答の割合が全国値を上回っています。

授業でタブレットなど ICT 機器の使用頻度が、全国と比較して高く、勉強の役に立っていると感じている児童が多いことが推察されます。

また、「総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなど学習活動に取り組んでいますか」「学級活動における学級での話し合いを生かして、今、自分が努力すべきことを決めて取り組んでいますか」「道徳の授業では、自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいますか」は、特に肯定的な回答が多く、自分自身で考えて取り組む活動では、できていると感じている児童が多いことがわかりました。

【家庭生活・地域・社会について】

ほぼすべての質問において、肯定的な回答の割合が全国値を上回っています。

「朝食を毎日食べていますか」は肯定的な回答の割合が全国値とほぼ同じですが「あてはまらない(朝食を毎日食べていない)」と回答した児童の割合は全国値より高い割合になっています。「毎日、同じくらいの時間に寝ていますか」「毎日、同じくらいの時間に起きていますか」の肯定的な回答は全国値を上回っています。生活リズムが整っていることがわかります。

「今住んでいる地域の行事に参加していますか」など地域社会に関わることを積極的に行う姿勢が見られます。また、「日本やあなたが住んでいる地域のことについて、外国の人にもっと知ってもらいたい」の肯定的な回答は、全国値を上回り、関心の高さがうかがえます。

【家庭学習について】

家庭学習の時間については個人差があり、全国値と本校で共通していることは「学校の授業時間外に、普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、勉強しますか」は、「1時間以上、2時間より少ない」の回答率が一番多く、「土曜日や日曜日の時の1日当たりの勉強時間」は、「1時間より少ない」の回答率が一番多い状況です。また、「読書は好きですか」は肯定的回答が全国値を上回っておりますが、「学校の授業時間以外に、普段1日当たりどれくらいの時間、読書をしますか(電子書籍の読書も含む。教科書や参考書、漫画や雑誌は除く)」という質問に対しては、30分以上の回答でみると全国値よりやや低く、「全くしない」が一番多い値でした。ここ最近の調査と同様に、進んで読書をしている子どもがいる一方で、あまり読まない子も一定数おり、二極化傾向が見られます。

【教科の学習について】

国語

「国語の勉強は好きですか」「授業の内容はよく分かりますか」「将来役に立つと思いますか」は肯定的な回答が全国値を上回っています。「大切だと思いますか」は肯定的な回答が全国値をやや上回っています。その他すべての項目において全国値を上回っており、肯定的な意見が多くみられました。

算数

「算数の授業の内容はよく分かりますか」は肯定的な回答が全国値をやや上回っています。しかしそれ以外の「算数の勉強は好きですか」「大切だと思いますか」「将来役に立つと思いますか」は肯定的な回答

が全国値を下回っています。

また、無回答率は全国値と比べて高い傾向がみられますが、「言葉や数、式を使って、わけや求め方など書く問題について、どのように解答したか」の質問に対し、「最後まで解答を書こうと努力した」との肯定的回答は、全国値より上回っており、最後まであきらめずに取り組んだことが見て取れました。

英語

「将来、積極的に英語を使うような生活をしたり職業に就いたりしたいと思いますか」「学校の授業以外で、英語を使う機会がありましたか」は肯定的な回答が全国値を上回っています。しかし、全国値も低い傾向がみられ、本校でも課題とらえています。「英語の勉強は好きですか」「英語の勉強は大切だと思いますか。」は、肯定的な回答が全国値を下回っています。とはいえ「外国の人と友達になったり、外国のことについてもっと知りたい」は肯定的な回答が全国値を大きく上回っており、外国語の背景にある文化に対する理解を深め、他者に配慮しながらコミュニケーションをとろうとする態度の表れであり、頼もしく感じています。

3 今後の取り組み

～教科に関する結果を踏まえて～

本年度の研究テーマは、『主体的に説明文を読む力を育てる授業づくり ～自分の考えを表現できる子どもの育成～』とし、取り組みを進めています。引き続き、授業の中で他の児童と交流する場面を多く持ち、その中で自分の考えを伝えたり書いたりするなど表現できる学習を大切にしていきます。

今回の結果をもとに、子どもたちが学ぶ楽しさを感じ、主体的に学習に取り組めるよう、研修や授業研究に取り組み、教職員の授業力向上に努めてまいります。

～生活環境や学習習慣等の結果を踏まえて～

本校はここ数年、子どもの自己肯定感や自己有用感を高めていくことを中心に教育活動を進めています。運動会など大きな行事は、主体的に考えて実践する力をつけ、自己肯定感が一層高まるチャンスです。とはいえ、一つしたからと言ってすぐに高まるものでもなく、日々の地道な取り組みが大切になると思っています。

「人の役に立ちたい」「人が困っている時に進んで助ける」は、日ごろの縦割り清掃や学校行事で他学年と接する機会が増えてきたことで肯定的な意見が増加していると思われます。実際に高学年の子が不安そうな低学年の児童に寄り添う場面が多々みられ、心が自然とあたたかくなります。しかし、「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」は肯定的回答がほぼ全国平均ではあったものの「あてはまらない」と回答した児童もあり、3年間いじめ予防授業を行ってきた学校としては残念な結果となり、真摯に受け止めています。学校は考えがちがう人たちが集まる小さな社会です。いろいろな考えがあるのですから、どうしても意見が合わないことも出てきます。けれども、話し合いを経て、仲間と一緒に何かを達成できた時の気持ちは格別です。まさに学校は「学びの宝庫」とも言えます。いろいろな出会いをチャンスととらえ、互いに認め合うことで、安心・安全でみんなが楽しい学校になることを繰り返し子どもたちに伝え、どの子にとっても「安心・安全」な学校になるよう取り組んでまいります。

ご家庭におかれましても、子ども自身が主体的に活躍できる役割を家庭の中で与えたり、場を設けたりし、積極的に子どもの行動に目を向け、良さを認めることで自己肯定感や自己有用感を高めていく関わりをしていただいていると思います。今後とも引き続きよろしく申し上げます。